

## 赤石澤傳さん 藍綬褒章を受章



「今できることをしっかりとやっていきたい」。左胸に輝くメダルが藍綬褒章です

令和2年4月1日から飯館村消防団長に就任した赤石澤傳さん(飯樋町)が、藍綬褒章を受章しました。

団長として2年目の今年。現役の消防団として受章するケースは非常に珍しいことです。

赤石澤さんは、「誰でももらえるものではないのでうれしい。多くの人に助けてもらい、団員の協力がある今の今がある。団員の皆さんはもちろん、これまで傍で支え続けてくれた妻にも本当に感謝している」と、周囲の方達への想いを述べました。

## 荒利喜さん 瑞宝双光章を受章



5月24日、受章報告に来庁した荒さん。職員が大きな拍手を送り、荣誉を称えました

4月29日付けで政府が発表した春の叙勲で、荒利喜さん(飯樋町)が、瑞宝双光章を受章しました。社会・公共のために永年の功労がある方に贈られる勲章で、今年は全国で80人が受章しました。荒さんは、消防団に43年間、そのうち10年間にわたり団長を務めました。平成19年に藍綬褒章を受章後、今回で2度目の受章。「先輩・同僚・行政・団員など本当に多くの人の協力があったもの。特に家族には感謝してもしきれない」と、団長として全力を尽くした震災前後の10年間を振り返り、感極まる場面も見られました。

## 「あぶくまもち」実証栽培 10年ぶりの挑戦が始まる



復活を記念し一部で手植えも行いました。(円内右から)相双農林事務所・大波恒昭所長、杉岡村長、青田さん

5月21日、青田豊実さん(前田)の16aの圃場で、もち米「あぶくまもち」実証栽培の田植えを行いました。「あぶくまもち」は、県農業総合センターが開発した高冷地向けの品種で、村内では平成21年の品種登録直後から栽培が始まりました。今回の作付けは、同センターで保存されていた種もみからの復活です。杉岡村長は当時を振り返り「新春のイベントで餅をついて、普及拡大の年とするはずでしたが、震災で途絶えていました。10年が経ち、ここから再び夢をふくらませたい」と笑顔で話しました。

## いいたて村の道の駅までい館 「いいたて春の陣」を開催



会場内から「ふかや風の子広場」へ。自在にめぐる「汽車ぽっぽ」は、子ども達に大人気でした

ゴールデンウィークにあたる4月29日から5月5日の1週間、「いいたて村の道の駅までい館」が春のイベント「いいたて春の陣」を開催しました。会場は、直売コーナーに隣接するイベント広場で、感染症対策も講じながらの開催となりました。前半は「春の屋台祭」、後半は「グルメ祭」と題して、数多くの出店が並んだ他、会場内と「ふかや風の子広場」をゆっくりとめぐる「汽車ぽっぽ」のアトラクションも登場。大勢の来場者が、家族や友人との時間を、笑顔で楽しんでいました。

## 吉川市から花菖蒲の贈り物 支援と交流をありがとうございます



玄関ホールに飾られた花菖蒲。多くの人が足を止め、見事な咲きぶり、凛とした佇まいに感嘆していました

5月8日、埼玉県吉川市から、村役場に見事な花菖蒲を贈っていただきました。吉川市は、平成30年度から3年間にわたり、飯館村に応援職員を派遣。双方のイベントで交流したり、令和元年台風19号被災の際には支援物資をいただいたりと、支援と交流が続いています。吉川市の花菖蒲は、当地で江戸後期から改良が行われていたという歴史あるもの。贈っていただいた主力品種の「初霜(はつしも)」は、ボリュームのある純白の花姿が大変に豪華で、輝くような美しさが行き交う人の目を引きつけていました。

## 木質バイオマス施設の 立地協定を結びました



締結式は交流センター「ふれ愛館」で行われました。左から志賀行政区長、杉岡村長、梶山社長

蕨平地区減容化施設の跡地に設置される「飯館村木質バイオマス発電施設」について、村は、実施主体に選定された「飯館バイオパートナーズ株式会社(梶山雅生社長)」と立地協定を結びました。この施設は、県産の間伐材等を燃料に発電し、里山の再生にも貢献します。杉岡村長は「県全体の復興につながる」と期待し、同社に積極的な情報公開や地元との連携を求めました。また、立会人として協定書に署名した志賀三男蕨平行政区長は、地区がふるさとに寄せるの思いを伝え「よりよい協力関係を築いていきたい」と話しました。